

京都支部

地域社会における商店街の役割

―地域住民に役立ち、地域の魅力を発信する街おこし活動の取組み―

1. 調査・研究に当たって

- ①平成 21 年 8 月、地域商店街活性化法(経済産業省)の施行を鑑み、京都府内で積極的にまち起こし活動を実施している商店街に対する調査を実施する。
- ②調査対象商店街は、京都府、京都市、商工会議所、商工会、京都商工連盟等の行政機関との調整を図り、当調査・研究主旨にマッチした京都府内 13 商店街をフォーカスし、商店街の概要、業種構成、まち起こし事業の取組み、地域コミュニティ施設・活動についてヒアリング訪問、アンケート集計・分析および関係文献調査等を行う。

2. 調査商店街の概要

- ①調査商店街の規模(組合員数)は、178 店の大規模商店街から 14 店の小規模商店街、さらに商店街特性は総合型、買回り型、最寄型と多様な性格を有し、規模の大小や特性に関係なく、商店街が主体的な取組みを展開している。
- ②地域コミュニティ活動においても、安全・安心な施設・ソフトの充実、3S、エコ、地域との協働、起業者・後継者育成、地域資源との連携と積極的な活動を展開している。

3. 商店街のコミュニティ活動事例

- ①各商店街が取り組んでいるコミュニティ活動を「取組み概要」にまとめ、概要の詳細説明として「実施背景、内容、プロセス・留意点、社会と商店街の評価、今後の課題」の内容で説明し、13 商店街の活動内容を比較・検討しやすい様式に統一した。
- ②コミュニティ活動をみると、地域とのふれあい活動、イベント・祭事活動、地域の産業起し活動と大別されるが、いずれの活動も地域社会を巻き込んだ活動となっている。

4. 中小企業診断士の役割

- ①商店街の主な課題としては、組織力、企画力、情報力においてマンパワーの制約と、事業推進の継続性とマンネリ回避に課題が見受けられる。さらに地域との協働活動の実現に至るまでの折衝、役割分担、地域特有の制約等に、多大な負荷がみられる。
- ②上記課題対応として中小企業診断士の主な役割は、商店街組合員のベクトルを合わせるためのコンセプトの明確化、商店街の組織・体制づくり、企画立案、地域との折衝に加え、次なる事業に結びつける PDCA サイクルの推進支援が求められている。